

赤こんりポート

東恵子リポーター



障がいのある人も「投票に行こう」

4月19日に市文化会館小ホールで、障がい者福祉事業所に通う6人が、市議会議員選挙の期日前投票を行いました。

知的障がいの程度により自分で候補者名を書けない人は、事前に事業所と選挙管理委員会とで意思表示の方法を確認していたこともあり、「代理投票」でスムーズに投票していました。「代理投票」とは、投票所の事務従事者2人が投票者の意思を確認し代筆する制度で、今回の投票では保護者が用意した顔写真で意思表示する人もいました。

選挙管理委員会では、依頼を受けた学校で選挙制度の説明や模擬投票を行う出前講座を実施し、若年層の投票も呼びかけています。福祉事業所でも行き、障がい者がより投票しやすくなるとういすね。

赤こんりポート

渥美勉リポーター

人にも地球にも優しい蜂蜜で近江八幡を元気に！
地域おこし協力隊・谷口さんの挑戦

地域おこし協力隊として活動中の谷口晟士さん(写真左)が、仲屋町中のまちや倶楽部内に蜂蜜専門店をオープンしました。谷口さんは「蜂蜜は砂糖と比べて、環境への負荷が少なく栄養バランスも整っている、人にも地球にも優しい甘味料。その魅力をもっとたくさんの人に知ってもらいたい」との思いから起業を決意したそうです。まちや倶楽部は以前から地域おこし協力隊の活動でお世話になった場所で、「ともに旧市街地を盛り上げていきたい」と意気込みを話していました。



赤こんりポート

松村美沙枝リポーター

アレルギーの子どもにも
安心でおいしい洋菓子を

市内在住で、製菓・製パンをされているriz.cinqの塚本亜沙美さん。自身のお子さんのアレルギーが判明した際、子どもも喜んで口にできるようなアレルギーフリーの食べ物を探すのに、とても苦労されたそうです。それをきっかけに、「小麦・卵・乳・白砂糖不使用」の生地を自分で作ることに。容易な製菓ではないものの「アレルギーの人が食べられることはもちろん、近年生産の減っている米の普及にもつながれば」との思いで、現在「県産県消」を夢にさまざまな米粉で洋菓子を試作中とのこと。実現が楽しみです。

赤こんりポート

馬場利男リポーター



八幡コミセンで子ども茶道教室

日本の伝統文化である茶道との出会いを大切にし、お茶のいただき方・楽しみ方・立ち居振る舞い方を習得してもらうための子ども茶道教室が茶道なごみこども会(代表・梅村智子さん)の主催で、4月8日に八幡コミュニティセンター和室で行われました。30人が参加し、初めて茶道に挑戦する子どもや何年も教室に来ている子どもが、茶道の基本的な流れを先生たちから優しく分かりやすく教えてもらっていました。小さな子どもたちは正座が長くできずに、足をもじもじ動かしながら頑張っていました。400年余りにわたる茶道文化を、多くの子どもたちが継承・発展していってくれることを願っています。

4月28日



ふるさと学習で和菓子の食体験

市内の公立小中学校に通う児童・生徒が、こどもの日を前にふるさと学習の一環として、菓子製造・販売などを行う株式会社たねやから提供された「かしわ餅」を、給食後のデザートとして楽しみました。

この取り組みは、同社の「子どもたちに日本の伝統的なお菓子を味わい、お菓子を食べる文化の良さを感じてもらいたい」との思いから学校給食と連携して行うもので、昨年11月の「水ようかん」に続いて2回目となります。

給食を食べ終わった子どもたちは、かしわの葉に包まれた餅を笑顔でほおばり、柔らかく伸びる餅と程よい甘さのあんこに舌鼓を打っていました。

5月2日

沖島のさらなる振興のために
新しい地域おこし協力隊員を委嘱

京都市北区出身の橋本花菜子さんは、これまでアパレルメーカーや雑貨店で接客や販売、オンラインショップ運営の仕事に携わってきました。5月から協力隊としてこれらの経験を活かし、沖島で民泊の運営管理と自立化に向けた検討や、移住・関係人口の受け皿づくりに取り組みます。

橋本さんは「沖島の皆さんに温かく迎えてもらい、寂しさをあまり感じなかった。島の温もりを大事にしながら、民泊などを通じて、また来たいと思ってもらえるような場所づくりをしていきたい」と抱負を話していました。

5月3日・4日

伝統の仕掛花火
「篠田の花火」

「近江八幡の火まつり」の1つとして国選択無形民俗文化財となっている篠田の花火が、4年ぶりに篠田神社で開催されました。

今年の和火の絵柄は舞楽の「蘇合香」がテーマ。古代インドのアショカ王が病を患ったとき、蘇合香の葉草を食べた病が治ったことから作られたとされており、その中の6人舞を表現しています。コロナ禍で社会活動を自粛して4年が過ぎ、世の中が日常を取り戻しつつある今日に、病をいやした神の力、仏の力が再び満ちてくることを願い奉火されました。他にも瑞雲に鳳凰の図の色鮮やかな「吊りランス」と呼ばれる洋火、火の粉が滝のように流れるナイアガラ花火、綱火(ロケット花火)も披露され、境内を埋めた見物客は幻想の世界にしばし酔いしれました。



左から 馬場 利男さん(鷹飼町)、松村 美沙枝さん(船木町)、東 恵子さん(中小森町)、渥美 勉さん(中村町)

市民が地域の魅力やイベントの取材情報などを、市広報紙やSNSなどで発信する「赤こんりポーター」の今年度のメンバーが決まりました。

これから市内のさまざまなできごとを、市民目線でお伝えしていきます。



Facebook
ページは
こちら